

# IFNEC 最近の活動の概要 (2018年 その1)

運営グループ会合 (2018年5月30日、OECD/NEA(フランス)) †

- ・ 15参加国、4オブザーバー国、4オブザーバー機関が出席
- ・ 運営規約の変更提案：IntergovernmentalからInternationalなフレームワークに変え、非政府組織の参加可能にし、執行委員会の参加レベルを閣僚級から上級行政官レベルとする。
- ・ 活動計画の変更を提案：各WGの柔軟な活動を目指し、2年間の活動目標を定め、これに従って運営。執行委員会を廃して運営グループに統合し、新たに運営委員会として設置する。
- ・ いずれの提案についても結論は出ず、参加国からのコメントを事務局が集約し、11月の会合において再度議論の予定。
- ・ 日米加から、「グリーンエネルギーの未来に関する原子力イノベーション(NICE Future)」と題する新たなイニシアティブを紹介する共同プレゼンテーションが行われた。
- ・ これは、グリーンエネルギーの普及における原子力の役割について広くエネルギー関係者との対話を行うことを目的とし、原子力のベースロード電源としての役割、先進的な次世代原子力技術・原子力の革新的応用（原発と再エネの統合システム、熱利用等）をスコープに含めている。

† 原子力委員会HP: <http://www.aec.go.jp/jicst/NC/iinkai/teirei/siryoy2018/siryoy21/index.htm>

# IFNEC 最近の活動の概要 (2018年 その2)

第9回執行委員会会合 (2018年11月15日、東京) †

- ・ 16参加国、5オブザーバー国、4オブザーバー機関が出席
- ・ 運営グループ及び各ワーキンググループの活動成果及び活動計画を口頭にて報告
- ・ 2017年に設置された原子力供給国・受領国アドホックグループのこれまでの活動を評価し、同グループを常設の作業グループとすることを承認
- ・ 2018年IFNEC共同声明を採択

## 2018年IFNEC共同声明 (一部抜粋) :

- 原子力は、信頼性があり、強靱、安全、クリーン、かつ、長期的な電力供給源として、重要な役割を果たし、また、果たし得ることを認めるとともに、クリーンエネルギーの中に統合された形で相乗効果を生み出すのみならず、原子炉・核燃料サイクル技術のイノベーションにより果たす役割の可能性についても認識
- 原子力産業の全分野にわたって、強力な原子力安全文化を維持しつつ、最高水準の核セキュリティと核不拡散を満たし、また、核燃料サイクルのバックエンド管理に対す費用対効果の高い安全な解決方法を引き続き開発・実施していくことが必要であることも認識

† 原子力委員会HP:<http://www.aec.go.jp/jicst/NC/iinkai/teirei/siryo2018/siryo43/1.pdf>

次回の執行委員会会合は、2019年11月に米国において開催予定